

「アベ政治を許さない」

第17回県本部大会開催



【選出された役員】

執行委員長：山内健人、副委員長：飯塚弘之、亀田豊次、書記長：石井勝己、執行委員：荒牧丈夫、山本晴康、大貫高志、森田英夫、菅谷徹也、工藤経見、渡辺仁一、今成道子、川田道男



退任した若林さん

一〇月十八日、組合事務所第十七回栃木県本部定期大会を代議員など三十一人が参加して開催しました。主催者あいさつで山内委員長は「高齢化、格差(貧困)といった日

討論では各支部代議員らが活動報告を行いました。今回の特徴は、半数以上の代議員が組合拡大の必要を訴えたことでした。また、

組合員の拡大を進めよう

また組織拡大について、全体的に進めることを確認しました。

本全体の課題が組合活動にも反映している。組合員同士助け合うことが一層重要になってきている」と述べ、組合の役割を訴えました。



宇都宮など県央地域での組合員拡大が課題に

【組合員紹介】

青柳翔太さん(大工25歳)

「親父オしも組合入ったよ」

過労死認定された青柳武さんの長男

一九九九年七月、気温三六に達する猛暑のなか、点検のためにダンプ下にもぐったまま一人のダンプ労働者が亡くなりました。

ダンブ支部青柳武さん享年三六歳。奥さんと四人の子どもたち(当時長女中三、次女中一、長男小三、三女五歳)が残されました。

組合では、青柳さんの亡くなる前の労働時間を検証した結果、国の過労死基準をはるかに上回る長時間労働であったことができました。



2005年6月、労災認定を墓前に報告したときのご家族



お父さん同様たくましく成長した翔太さんとお母さん

労死認定は全国でも初めてのケースでした。

青柳さんが亡くなってから一六年、あのとき八歳だった長男の翔太さんが今回組合に加入しました。

翔太さんは高校で建築を学び、卒業後地元の大工店に勤めて経験を積み、今年春から一人親方として独立しました。久しぶりにご自宅を訪問して話を聞きました。

受け入れられなかったお父さんの死

「父のときはお世話になりました。出迎えてくれた翔太さんはたくましい青年に成長していました。」

「父はよくダンブの助手席に乗せてくれました。突然亡くなってしまった。死を受け入れることができませんでした。ただ、家族のなかで男は私だけですから、子どもなりに

「父はよくダンブの助手席に乗せてくれました。突然亡くなってしまった。死を受け入れることができませんでした。ただ、家族のなかで男は私だけですから、子どもなりに

「しっかりとしなきゃ」と思っていました。」

「子どもの頃、自宅をリフォームした大工さんを見ておもしろそうなお仕事だと思いました。物づくりに興味を持ちました。」

お父さんも自分でダンブの修理やデコレーションをする手先の器用な人でした。「いま主流の洋風住宅ではなく、日本家屋の伝統的な技術を身につけたいと思っています。いま職人の世界も若い人が足りない状況です。これからは伝統的な技術をもつ職人が求められると思っています。」

家族みんなで

悲しみを乗り越えて

母親青柳都代子さんの話「長女、次女は結婚して家を出ました。いまは翔太と当時四歳だった三女の三人で暮らしています。三女もベトナムで働いているので私もようやく肩の荷が下りた感じです。」

労災認定されたとはいえず、一人で子ども四人を育てる苦労は並大抵ではなかったはず

「男親と女親、一人二役をやらなければいけないので大変でした。いつも主人が生きていたらどう対応したかと考えながら子どもたちと接してきました。時には殴る蹴るも。いろいろあったけどまっすぐ育ってくれたと思います。」

青柳武さんが命を削って守ろうとした家族。これからも支えあって頑張ってください。

ただいま秋の組合員拡大月間絶賛開催中です。まだ組合に入っていない方を紹介ください。